23.葛井寺参詣曼荼羅絵図を解く(1/2)

葛井寺に残存する貴重な資料として、永正7年(1510年)同時期に作製された**参詣曼荼羅と勧進帳**が残っています。 明応2年(1493年)、河内守護畠山政長と管領細川政元との紛争で葛井寺は殆ど消失し、本堂一宇と塔一基が残り、さらに永正７年(1510年)8月8日大地震が発生し、本尊の千手観音以外殆ど消滅しました。 そこで葛井寺再興の為、参詣曼荼羅と勧進帳が作製され、各国へ幅広く貴賤の浄財を募っていったのであります。 今回は参詣曼荼羅について形態、起源や絵図に描かれている27人の人物を通じて、当時の世相や葛井寺の隆盛を想像してタイムスリップしてみたいと思います。 勧進帳は三条西実隆によって作成されました。 彼は正二位、内大臣。後土御門・後柏原・後奈良天皇に仕え幕府の足利義政・義澄とも親交があり、和歌、書道、有職故実に長けた室町時代後期を代表する文化人でした。彼のような偉大な能筆家に作成していただけた事は、当時葛井寺がいかに由緒正しく格式が高い寺であったかという証明でもあると思います。

1. 形態と起源

(1)大半は紙本着色。朱、群青、黄土、胡粉の泥絵具を顔料として描かれ安価な絵図である。彩色的には原色効果があるが描写法は素朴である。大半は紙本着色で絹本は江戸時代の作製で25本のみです。製作は中世期～江戸時代末期で葛井寺参詣曼荼羅は室町時代の作製と思われ、比較的古い方に属し小さい方であるが(縦135.6㎝×横59.8㎝)、参詣曼荼羅の歴史資料としての価値を少しも損ねるものではない。

(2) 古代から中性迄の寺社は朝廷や幕府からの援助を財源としていたが 15 世紀以降依存出来なくなり、寺社自身が勧進活動するようになり早くは 12 世紀末から始まっている。

(3) 室町時代は西国33ヶ所の霊場が本願活動を含め活発になる。

(4) 絵図の内容は礼拝の対象となっていること。寺社、境内一円と周辺を俯瞰的に描いている。参詣場面を配し、行きかう参詣者達を描いており、寺社の行事、祭礼、門前町の繁栄を描くものが多い。 また寺社に伝わる物語を描いており、絵解きを想定して描いているケースも多い。

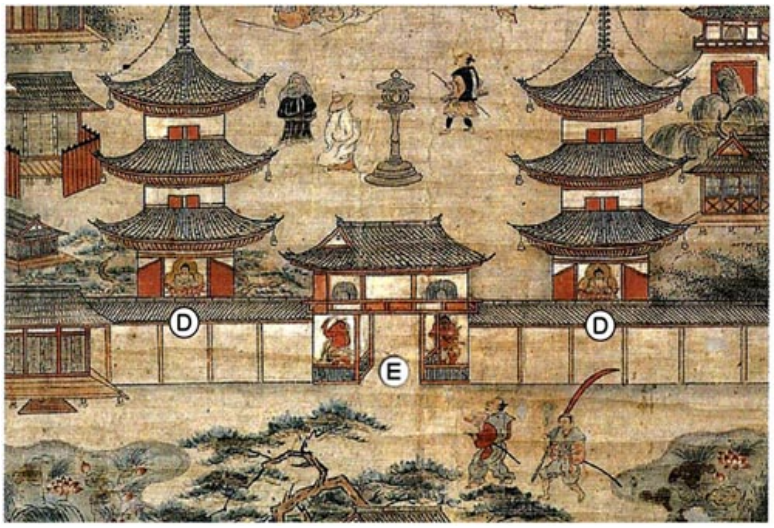
(5) 西国33ヶ所寺院の絵図は様式や人物像において共通性が見られる。その他も地物、参詣自然物の描写に共通性がある。曼荼羅絵図は全国で150例残存している。那智参詣曼荼羅だけで36例残存、立山曼荼羅も48例と一番多く残存。2ケ寺だけで84例と56%占める。那智参詣曼荼羅をモデルにしたものが多い。

（6） 工房は3，4か所ありそこで製作されたようである。絵師は西国33ヶ所の信者が多く各寺社をまわっており、依頼された寺社の概要をある程度周知していたようである。

2. 葛井寺参詣曼荼羅図の全体像

（1）本図は縦長の画面に境内の光景を正面上空から鳥観的に見下ろした角度から描写したもので、一般的には方形に近い参詣曼荼羅が多いのと比べると少々趣を異にしている。本堂、三重塔2基など伽藍の主要な建物の配置の具合や参詣者の風俗、境内の処々にみられる樹木などの描写から、本図は室町時代の制作になり、伽藍もほぼその頃の状況を表現したもとみられている。

（2） 構図は、中央やや上部寄りに正面7間の本堂をひときわ大きく描き、その前方に中心線の左右に同形の三重塔を一基ずつ配置し、さらにその前方の中心線上に中門、南大門を表現し双方の門の東西に土壁が続いている。中門、南門の空間に満開の蓮花が池全面を覆いつくしている。本堂正面前方と南大門の前方に火袋が丸形の灯篭が各一基描かれている。本堂の東西南北に14棟の建物が点在して描かれているが本堂東南に独特の形をした鐘楼以外、堂名が判明出来ない。



（3）本堂、三重塔、中門、南大門にそれぞれ仏像が安置されている光景を描いている。

(A)本堂中央正面に本尊千手観音座像だが現在の本尊にはなく、元々造立当初から造られなかった宝鉢手が膝前に描かれているがこれは絵師が本尊を確認しないまま、図像学上一般的な千手観音像を描いてしまったと思われる。
(B)本堂の左端に錫杖を右手に、独鈷杵を左手に持ち、高下駄を履き、岩に腰をかける 。
(C)本堂の右端に逆髪形で両手を広げ六角形台座に坐る尊像が描かれている。本来愛染明王だと言われてきたが違うようである。
(D)東西の三重塔には通肩、定印の如来形の坐像が二重円光、蓮華座に坐す姿で一体ずつ描かれているが、図像的には阿弥陀如来に最も近い。
(E)中門。
(F)南大門には赤身の天部形が一体ずつ描かれている。いずれも忿怒相を表しているがどちらが阿形か吽形かは不明。
(G)南大門前の西南(左端)に左の柱を描かない赤い鳥居が見える。これはこの土地の産土神と称された長野神社の鳥居であろう。明治41年に隣の辛國神社に合祀された。

(2021.11　赤木)

参考文献
『藤井寺市史 第1巻』1997年
『藤井寺市史 第10巻 史料編八下』1993年
大阪市立美術館『紫雲山葛井寺』1995年
ウイキペディア「社寺参詣曼荼羅」